自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念があり、事業所の全体会議にて職員で唱和している。各事業所に理念を掲示して共有している。	「″そよかぜ″憲章」を定めていますが事務室内にのみ掲示されていて、利用者家族や訪問者には分かりません。また全体会議で唱和していることは議事録がなく確認できませんでした。	「憲章」を誰でも分かるよう施設内に掲示し、唱和の方法などルール作りが望まれます。全般的に記録とそれを活用した情報共有の仕組み作りに改善を期待します。記録作成が職員の過重な負担にならない適正な人員確保も望まれます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し。回覧板等で地域の情報も頂いている。月１回、近隣の保育園とも交流があり来所してくれている。	保育園児が1ヶ月に1回来所しています。夏まつりは近隣からも参加するなど利用者と交流しています。逆に小学校の運動会には利用者が参加しています。今後は施設を地域のサロンにしていきたい、と言うことで期待します。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会に地域の方も参加して頂いて色々な話し合いをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活動報告や今後の予定をお伝えしてそこでたくさんの意見を頂き、サービス向上に活かしている。	運営推進会議では事故報告に対して厳しい意見が出され改善に取り組んでいます。次回はセンター長、管理者2名、利用者家族、自治会長および包括支援センターからの出席で行うことになっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の介護保険課の方とは、密に連絡を取っており、いつでも問い合わせ出来る関係である。	市役所の介護保険課とは制度的内容の確認、事故報告、認定調査の日程などその都度情報交換しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。管理者や計画作成担当者、現場の職員も研修に行って理解を深め、実践している。	1階がデイサービス2階がグループホームとなっているので、安全確保のため、エレベーターにはロックが付いていますが、その他に拘束は行われていません。職員にも研修を行っています。	身体拘束に関する研修の記録がなく、研修内容の共有がどのようにおこなわれているのか確認できませんでした。研修や内部での学習についても記録を残し、共有の方法を確立することが望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員同士が牽制し合い、虐待がないように取り組んでいる。より多くの職員を研修に行くようにしたい。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や計画作成担当者は、千葉県高齢者擁護・身体拘束廃止研修を受講している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、契約書・重要事項説明書の内容をすべて説明している。その場で疑問点や不安なことを尋ね、納得して頂いた上で入居して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会カードに書く欄はあるが、ほとんど書かれない。面会の際に、ご要望を聞いたり、運営推進会議の際にご意見などを聞いている。	家族が来園した時に面談を行い、意見の汲み上げに務め改善につなげています。残念ですがこの面談記録が残されていません。この情報の共有の実態も確認できませんでした。今後の改善に期待します。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホームの全体会議では、職員が意見を出し合って細かな対応を決めている。普段からも意見を吸い上げている。	職員は積極的で明るく、施設に対して意見も言いやすい環境ができていることが窺えました。	職員から何時どのような意見が出され、それがサービスの改善にどのように活かされたのか、この情報の共有の実態も残念ですが確認できませんでした。今後の改善に期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を通して今後の目標設定をしたり、個々の努力や実績、資格取得に応じて給与変更を可能な限り実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	センター内研修の他、エリア主催の研修を行っている。積極的に参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	エリアで毎月開催するグループホームの会議に参加し、他センターの職員と交流する機会を設けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に必ずケアマネが面会し、アセスメントを行なっている。知り得た情報を入居前に周知している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の窓口としてケアマネ・管理者を立て相談窓口を明確にしている。契約の際にも、管理者が立ち会い家族の意向に添うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に必ずケアマネが面会し、アセスメントを行なっている。他サービスの利用の紹介も入れ、ご家族に説明はしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気を目指し、個人の性格を熟知し、役割を持つことで本人の居場所が出来る様に支援している。また楽しい会話をしながら一緒に食事もとっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も参加出来る様な行事を企画し、家族も楽しんで頂ける時間を作っている。クリスマス会や夏祭りには多数のご家族が参加されている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	積極的に馴染みの人に会ったり、出かけたりということはしていないが、面会や外出に大きな制限は設けておらず、自由に面会に来ていただいている。	面会簿では毎日2～5名の人が途切れず面会に訪れています。施設が利用者の馴染みの人との関係が途切れないよう、支援に努めてきた成果だと評価できます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を考慮し、座席の配置などには配慮している。また、職員が間に入り、話のきっかけ作りをしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事例はないが、契約が終了しても相談があればいつでも応じられる体制にはなっている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に十分なあせすめんとを行い、本人本位のケアプランを作成している。定期的なカンファレンスや、モニタリングを行いケアの見直しをしている。	入居時に家族から今までの生活環境や趣味などを細かく聞き取り職員間で情報を共有しています。また日々の係わりの中で、ことば、行動、表情、などから汲み取り把握しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、家族から今までの生活環境や、趣味などを細かく聞き取り、職員間で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子や過ごし方は必ず個人記録に残している。特変事項は必ず申し送り、職員間で共有している。また、ミーティングでは一人一人の対応について話し合い、統一を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は必ず家族に説明を行い同意をもらう。ユニット会議にてカンファレンスを行い、職員の意見も多く反映させている。	モニタリングは3ヵ月に1回とこまめに行われています。介護支援経過記録では一人ひとりについて細かく具体的にかつ経時的に状況を記述しており、家族の確認印も得ていて評価出来ます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日によって状態が大幅に違う利用者もいるので、個人記録にその日の様子を残し、職員間で情報共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	参加出来る方はディサービスのレクに参加し、活動の機会を作っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的なカラオケボランティアの協力により、ご利用者が地域の住民と楽しむ時間を持っている。また、行事の際には手品や踊りなどのボランティア参加もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を利用されている方がほとんどだが、家族による受診を希望されている方もいる。訪問診療についても月２回の訪問時以外にも必要時に電話で連絡、相談を行えるような関係性である。	ほとんどの利用者は、月2回の訪問診療を受診しています。利用者や家族がかかりつけ医を希望している場合は、家族の協力を得て実施しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療や外部受診の際に日ごろの本人の様子などを看護職に対し報告、相談するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、お見舞いに行った際にご利用者の状況を確認を行う事や、家族や病院と綿密に連絡を取り合う事で、医療職の治療に役立つよう情報の共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現時点でのターミナルケアの実践はないが、運営推進会議にてターミナルケアについて家族との意見交換を行っている。会社としてのターミナルケア研修にも参加している。	ターミナルケアについては家族とも意見交換を行い希望があれば行えることを伝えています。職員も研修に参加し、勉強して受け入れる準備もしています。訪問看護など医療機関との連携も検討しているので期待します。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の際のマニュアルはファイル化し、日ごろから再確認ができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年２回の避難訓練を行っている。また、災害時には自治会による近隣の協力を依頼している。	年２回避難訓練を行っています。災害時、自治会に対して協力を依頼しています。まだ協力の確約は取れていませんが、社協、高齢者の会、近隣や消防署とも協力し今後の体制作りを検討しています。	高台に建っているので今後近隣の避難場所としての役割、自治会や社協、高齢者の会等近隣や消防署と協力し合って災害時の体制作りを検討しているので期待します。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の有無にかかわらず一人の人間としての尊厳に留意した丁寧な言葉かけや対応を心掛けて接している。	プライバシーの研修を受け、その後も月2回の勉強会で利用者に対する言葉かけや対応を確認して、特に一人ひとりに合わせた言葉かけや対応を大切にしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間やおやつの時間など本人が好きなものを選べるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に基づき、一人一人のペースを尊重しているため、細かくスケジュール管理するのではなく、本人がやりたいことを自由に行えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪れる訪問理美容を使って散髪をしている。また、爪切りやひげそりも職員による支援のもとで行い整容をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下膳は利用者の皆様が一緒に行い、食器拭きやテーブル拭きなどはご利用者の身体機能に応じて手伝っていただいている。また、月1回程度食事の際に晩酌の日としてお酒を提供する日を設けている。	食事は利用者の見えるところで職員によって調理されています。「ここの食事はおいしいよ」と食べる前から期待して「おいしいね」と隣の人に言いながらよく食べていました。好みのパンを買いに行って食べる事もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者にて作成された献立に基づき食事をつくり提供している。食事、水分摂取量については、その都度記録し、把握をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。口をゆすぐことができない方に対してはオーラルティッシュを使用するなどの配慮をしている。また、状況に応じて訪問歯科を利用している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄できる方は、適宜の声掛け、誘導を促している。おむつを使用している方についても排泄パターンを把握し汚染している時間が少なくなるように努めている。	排泄チェックシートを利用して排泄パターンを把握し、個々に合わせて現状が維持できるようにトイレに誘ったり、利用者が一人で行く場合は見守るようにしています。失敗した時なども手早く取り替える等、配慮をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師の処方により、下剤を服用する方については個々の対応をしているが、乳製品やオリゴ糖などを提供し、薬品だけに頼らない便秘予防対策をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週に2～3回。1日3名程度入浴している。入浴を嫌がる方には無理に勧めず、時間をおいた声掛けや、翌日への振替等で対応している。	入浴は1週間に2～3回行っています。利用者の希望で毎日入ることもあります。一人で入るのが困難な方は職員が2人で対応してシャワーなども行っています。嫌がる方に対しては無理のないように対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯に限らず、希望する時に休める環境にしている。ただし、そのような場合でも夜間帯への申し送りなどして、昼夜逆転などが起こらないように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用等を全職員が完全に把握し切れてはいないが、薬の情報についてはファイリングをして、いつでも閲覧できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物が好きな方、掃除が好きな方、動物が好きな方などそれぞれに応じた楽しみを提供し、生活にハリを持っていたけるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事としての初もうでや、いちご狩りの際に外出している。また、天気の良い日には散歩やドライブにも出かけている。	ドライブでの買い物や年間行事を通しての外出は行われています。日々の散歩をするには職員数から考えても個々の希望に添って行うことは難しいように思われます。	利用者調査では外出が少ないという声もでています。今後は家族やボランティアの協力を得て一人ひとりの希望に添った外出が出来る工夫を期待します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は原則職員にて対応しているが、本人の希望によりお小遣い程度のお金を所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や絵ハガキが届く方にはご本人にお渡ししている。自ら電話をかけたいといわれる方もおり、職員による見守りや支援のもとご自身で電話をされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は日光がよく差し込み暖かな雰囲気である。掲示物には季節感を感じていただけるよう、都度張替えをしている。	共用空間は机の配置も工夫され外の景色が良く見えて、天候や季節が感じられます。「今日はお天気が良いね、いつもは小鳥が来ているんだよ」など会話もはずんでいます。利用者と職員が一緒にモップや雑巾がけをして清潔に過ごせる様にしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやいす等を設置して、個々がリラックスして過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には本人のなじみのある家財道具を持ち込んでいただくよう説明している。テレビや棚、ソファ等持ってこられている。	入居時は自宅で使用していた馴染みのある家具や家族の写真などを持ち込んで、出来る限り自宅に近い環境で安心して過ごせる様にしています。入居後も利用者の希望を家族に伝えテレビを入れたりもしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面を考え、倉庫や脱衣所には鍵をかけているが、両ユニット間自由に行き来できるようにしている。		